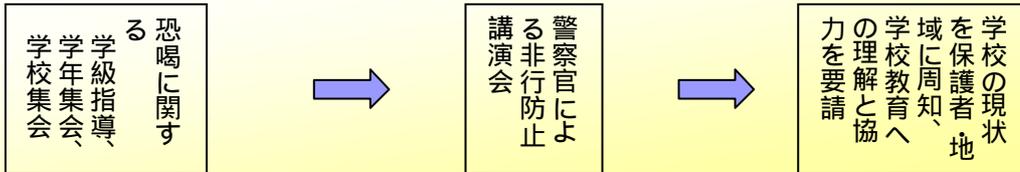


事例10「生徒指導上の諸課題の現状を踏まえ、非行行為から自らを守る勇気をはぐくむ取組」(中学校)

取組のポイント

当該中学校においては、卒業生が在校生を恐喝する事件が発生したことを受け、県警少年課の警察官を講師に迎え、非行防止講演会を実施した。

活動の流れの概要



教育課程上の位置付け

警察官による非行防止講演会(特別活動)

実施までの経緯

・近隣の市町村で、地元中学の卒業生の少年グループが後輩生徒に恐喝(いわゆる「カンパ」)を強要する事件が発生

・お金を支払った生徒への適切な指導の在り方を模索していたところ
先輩とのよくない関係を断ち切ることの重要さと具体的なすべを伝えたい

・背景として、一部生徒について、なかなか上級生とのかかわり合いを断ち切れぬ実態がある

・付近で、小中学生に、怪しげな誘いの言葉をかけたり、露出、手をつかむ、追いかけてくるなど、危険と思われる不審者の情報が数件寄せられている

・先輩との関係も不安要素となっている
(アンケート参照)

1年生の入学前・入学後にとった「心のアンケート」(計127人)

【入学前】	1年生の入学前・入学後にとった「心のアンケート」(計127人)			
	とても不安	少し不安	あまり不安でなかった	全く不安でなかった
先輩との関係	24	62	19	22
校則が厳しいのでは	15	27	43	42
授業がわかるか	29	48	25	25
テストができるか	47	34	25	21
【入学後】	とても不安	少し不安	あまり不安でなかった	全く不安でなかった
先輩との上下関係	12	41	29	45
校則が厳しい	8	24	49	46
授業の内容が難しい	16	43	34	34
定期テストがあること	29	44	22	32

事前の取組

・事件を受けて、学警連としても近隣校を含めて情報を周知し、事件の拡大や再発の防止に努める。家庭には、被害届を出した後、出したことにより何かトラブルがあった場合には、一部始終を警察に報告するよう徹底。

・来校者には受付ノートへの記入と来校者カードをつけてもらう。

・家庭の声 「大人としてやるべきは、自分の子どものことだけではない。社会の一員

として、子どもに手を出すような行為を絶対許すべきではないということである。」

・学級指導や学年指導、学校指導を実施。



非行防止教室の開催

<生徒指導講演会のねらい>

全校生徒に今の学校現状を踏まえる中で、卒業生との悪い関係を断ち切ることが学校生活を楽しく過ごせることにつながっていくことを教えるとともに、充実した学校生活を送るためには何が大切なのかを気付かせる。



・県警少年課による講話

- ・少年事件の発端は本当にくだらない理由である。自分の力を見せ付けるために暴力に走っている
- ・規範意識という物差しを長くするため、人の気持ちを考えたり、怖いものを断る勇気を持ってほしい
- ・卒業してもこの街で生活することを考え、後輩のことを考えて、いい学校づくりに貢献してほしい

県警による講話とともに、薬物乱用防止に関するビデオも利用し、規範意識の向上や、「断る勇気」を養う。

子どもたちの感想

・断る勇気を持つことの大切さを学んだ。仲間を大切に、素直に気持ちをぶつけあえる学校にしていきたい。



事後の取組

・学校の現状を学校だよりや通知で保護者、地域に知らせ、学校教育への理解と協力を要請
PTA運営委員会だよりの一節

(2)生徒指導関係

・もうすぐ夏休みですが、休み中の生活の中で、交通事故、水の事故、不規則な生活の中からの問題行動等の心配があります。保護者の方のご協力もいただき、健康で安全なそして充実した夏休みとなるよう指導していきます。

・町内で、小中学生に・怪しげな誘いの言葉をかけたり、露出、手をつかむ、追いかけてくるなど、危険と思われる不審者の情報が5月～7月に4件寄せられています。本中学校の学区内でも、同様のことがあり、集団下校を呼びかけました。

生徒には、夏休み前に改めて注意しますが、ご家庭、地域でも、不審者の情報があれば、学校又は警察へ連絡をお願いします。

本プログラムの活用により期待される効果と活用上の留意点

成果

・現役の警察官が「規範意識の物差しを長く」「断る勇気を持つ」という内容で分かりやすく話をしてもらい、生徒にとってインパクトのある内容となった。

・このような機会を通して関係機関との連携を深め、恐喝事件のような事例に対して、的確な対応を行うことができるようになる。

留意点

・講演会を実施した後も、卒業生による在校生に対するカンパの強要が起っており、警察等の関係機関等とも連携しながら継続的に指導をしていくことが重要である。

・本件については、校外学習という、学校の授業の時間の中で発生した事件もあり、非行防止教室の実施だけでなく、普段からの配慮が必要である。

